

懐かしんで楽しんで

小田原愛児園100周年フェス



子どもたちに人気だった的当て

関東・甲信越静

「先生、久しぶりで
す」「あれっ、〇〇ちゃん、大きくなったね」
園内の随所で再会の喜
びと驚きの声があき
こる。

神奈川県小田原市の
小田原愛児園(社会福
祉法人宝安寺社会事業
部、大水健晴理事長)

が100周年を迎え、
6月24日、同園でフェ
スティバルを開いた。
コンセプトは「懐か
しんで楽しんでもら
う」。年長児が体験し
ている木片で作品を作
るクラフトコーナーの
ほか、園庭では給食で
人気のカレー、さつま
汁などを提供した。ま
た、園児が毎朝踊って
いるオリジナル体操

「ほうあんにこにこ体
操」を作詞作曲した、
やもと問晤さんのライ
ブも行われた。

46年前の1977年
に入職した椎野あい子
園長は「笑顔を大事に
し、こどもと保護者の
話を聞いて一緒に考え

時代の要請に応える

同園は宝安寺住職の
村山大仙(1875〜
1934)が1923
年、関東大震災後のこ
どもたちを救済すべく
小田原託児所(旧名称)
として始まった。

大仙は小田原でいち
早く社会事業に取り組
んだ篤志家。明治維新
後の混乱で無学の青年
男女のため、1900
年に寺の境内に特殊夜
間学校を、妻の壽子が
た。

園庭の傍らでは約75
年前の卒園生である80
歳の男性2人と、先
代理事長の故望月郁文
さんの妻、園さんが談
笑する。男性2人は郁
文さんの同級生でもあ
り、「初代理事長の望
月正道さん(郁文さん
の父)がリヤカーを引
いて食料を集めてくれ
た。ひじきを食べたの
が一番の思い出」とか
みしめる。同園の卒業
証書番号は9700番
を超えており、再来年
には1万人の巣立ちを
見送ることになる。

捨て子は宝井安雄と
名付けられ、豪徳寺で
一緒に修行した望月正
道と親交を結んだ。安
雄が急逝したため、正
道が宝安寺住職となり
社会事業を継いだ。
宝安寺の社会事業は
その時代の要請に応え
るべく活動を展開して
きた。41年に太平洋戦
争が始まると、食料難
の中、こどもたちのた
めに小田原託児所で給
食を始めた。その後も
戦争未亡人らのために
乳児保育所、診療所な
どを設立。発達に気
なる子の成長を支える
べく障害児者支援にも
取り組む。大水理事長
は「社会で必要とされ
ることに情熱をもって
取り組む精神を今後も
継いでいきたい」と話
す。(榎戸新)

宝安寺社会事業部法人理念は「仏教の慈
悲の精神に基づく福祉の実践」。創立は19
00年。52年に社会福祉法人化。小田原市内3
エリアで小田原愛児園(利用定員260人)、
小田原乳児院(同80人)のほか、児童発達支
援センター2カ所、障害者のグループホーム
2カ所、就労支援事業所2カ所などを運営。
職員数は約300人。事業規模は約15億円。